

キャンパス名	千葉キャンパス				
授業番号	10003001				
授業名	宗教と科学	形態	講義	単位	2
担当教員	磯岡 哲也				
開講学期	2024年度 前学期	曜日・時限	月曜5限		
授業目的	宗教と科学それぞれの基礎的知識を養い、両者の関連性を把握し、あわせて人間生活における宗教の役割を考察する力を養う。				
授業内容	宗教と自然科学および社会科学との関連について知的な興味をもつ学生諸君の関心に応じて、人生と科学とのかわり方をさまざまな側面から学生諸君の理解に合わせて講述する。そのさい宗教と科学を架橋する考え方を平面的に解説するだけでなく、宗教の意味や役割を考察することにより、「宗教と科学」の問題を学生諸君が自分自身の課題として考える糸口になるようにしたい。				
到達目標	1. 社会現象としての宗教を対象化して人間理解として観る姿勢を培う。 2. 社会科学、自然科学の在り方を具体的テーマを通じて理解する。 3. 「宗教と科学」との関連を考察することの意味を把握することができる。				
ディプロマポリシーとの関連性	＜大DP-1＞ 【社会の構成員としての基本的知識・技能・能力】				
授業形態	授業は講義形式でおこなわれ担当者が毎回の授業運営にあたるが、約半数の授業では授業のなかに2人ずつのペアワーク、3人以上のグループワークといったアクティブラーニングを取り入れる。				
事前・事後学習の所要時間	本科目では、各授業回に2時間の事前学習、2時間の事後学習を必要とする。 合計15回の授業で、事前事後学習60時間となる。				
テキスト	※この科目では指定の教科書はありません。授業内で使用する資料等については、別途授業内でご案内いたします。				
評価方法	宗教現象を、人間理解の一助とし、社会科学、自然科学的文脈を対象化して理解し、「宗教と科学」との関連について理解するための授業内容に関する、事前・事後学習、小レポート、授業内試験（レポート提出）により総合的に評価する。				
評価基準	〔評価基準の割合〕 事前事後学習レポート30点、小レポート30点、授業内試験40点の計100点				
試験・レポート等のフィードバック	事前・事後学習レポート、小レポートについてはS-Naviのクラスプロファイル上で個別に講評、解説を行う。授業内試験については出題の趣旨やポイント等の解説を行う。				
注意事項及び履修条件	15回を通じて、主体的に学修に取り組むこと。 事前・事後学習を欠かさないこと。 提出物は必ず提出すること。				

S：100～90、A：89～80、B：79～70、C：69～60、D：60未満

第1回	
事前学習	小学校から高校までの学習を思い返し、宗教についての自分のイメージや興味の有無を頭のなかで考え、メモ書きしておく。
授業内容	＜「宗教と科学」の導入①＞ 授業実施にあたっての確認事項の理解、講義体系の理解、宗教の基本的智識の獲得を行う。とくに、この科目では宗教をできるだけ客観的にとらえることを理解する。
事後学習	事前学習のメモ内容を記したのち、授業をうけたあとの宗教に対するイメージを、配布された用紙1枚に400字程度にまとめて、記述する。
参考文献	プリント:磯岡作成「宗教を観る基本的な姿勢」 小口偉一編『宗教学辞典』東大出版会

第2回	
事前学習	前回配布されたプリント「宗教を観る基本的な姿勢」の後半を熟読して、重要と思われる部分に下線を付す。さらに、理解できない用語を事典等で調べておく。
授業内容	＜「宗教と科学」の導入②＞ 書いてきたメモを点検して、一部発表してもらい、人間には純粋客観は極めて困難であることを理解する。さらに、客観視の大枠を維持したままで、宗教への共感的理解の大切さを理解する。
事後学習	授業で扱った事例について、プリントや参考文献を参照して、さらに自分で考えたものについて授業のまとめと疑問などを400字程度にまとめる。
参考文献	プリント:磯岡作成「宗教を観る基本的な姿勢」 小口偉一編『宗教学辞典』東大出版会

第3回	
事前学習	前回の授業中に配布されたプリント「宗教と科学との関係」を熟読して理解し、印象に残った部分に下線を施して授業に臨む。理解できない語句や用語は辞典等で意味を調べてくる。
授業内容	＜宗教と科学の導入③＞ 宗教と科学の定義や機能の差異を理解し、両者の関係が必ずしも対立関係にとどまらないものであることを理解する。
事後学習	前回の授業と併せて、『宗教を理解する基本的姿勢』についてのレポート500字程度を作成する。
参考文献	磯岡作成のプリント「宗教と科学との関係」

第4回	
事前学習	前回配布されたプリント「キャンパス・カルトとは何か」を熟読して理解し、印象に残った部分に下線を施す。理解できない語句や用語は辞典等で意味を調べてくる。
授業内容	＜キャンパスにおけるカルト（1）＞ 近年宗教を装ったいわゆるカルトが大学キャンパスに現れている。そのうちの一部は学修環境の逆機能をもつものもあることを知識として持つことの意味を理解する。
事後学習	授業で扱った事例について、プリントや参考文献を参照して、さらに自分で考えたものについて400字程度にまとめる。
参考文献	磯岡作成のプリント「キャンパス・カルトとは何か」

第5回	
事前学習	前回配布されたプリント「キャンパス・カルトとは何か」を熟読して理解し、印象に残った部分に下線を施して授業に臨む。理解できない語句や用語は辞典等で意味を調べてくる。
授業内容	<キャンパスにおけるカルト(2)> カルトについての知識をえた後、それへの姿勢を「宗教と科学」の観点から、アクティブラーニングにより養う。あわせて、カルト対策のためのDVDを視聴し、キャンパスカルトへの科学的な判断力を養う。
事後学習	授業で扱った事例について、プリントや参考文献を参照して、さらに自分で考えたものについて400字程度にまとめる。
参考文献	磯岡作成のプリント「日并連のカルトへの取り組み」

第6回	
事前学習	前回教室で配布されたプリントを「憲法、教育基本法、宗教法人法からみる宗教」熟読して理解し、印象に残った部分に下線を施して授業に臨む。理解できない語句や用語は辞典等で意味を調べてくる。
授業内容	<現代日本の宗教状況(1)> 憲法、教育基本法、宗教法人法などの法令を参照し、信教の自由の意味、宗教教育の考え方、我が国の宗教の客観的状況について、社会科学的視点から理解する。
事後学習	授業で扱った事例について、参考文献を参照して、さらに自分で考えたものについて400字程度にまとめる。
参考文献	磯岡作成のプリント「憲法、教育基本法、宗教法人法からみる宗教」

第7回	
事前学習	前回教室で配布されたプリント「宗教の定義と文化庁宗務課のデータからみる宗教」を熟読して理解し、印象に残った部分に下線を施して授業に臨む。理解できない語句や用語は辞典等で意味を調べてくる。
授業内容	<現代日本の宗教状況(2)> 宗教法人法の理念と仕組みについて理解する。また、現実の宗教団体を、神道、仏教、キリスト教、諸教の4つに、伝統宗教と新宗教の2つにそれぞれ分類することの意義を理解する。また教団の形態をとらない、民俗宗教についても理解を深める。
事後学習	授業で扱った事例について、プリントや参考文献を参照して、さらに自分で考えたものについて600字程度にまとめる。
参考文献	磯岡作成のプリント「宗教の定義と文化庁宗務課のデータからみる宗教」

第8回	
事前学習	前もって配布されたプリント「宗教間対話」を読んで理解し、印象に残った部分に下線を施して授業に臨む。理解できない語句や用語は辞典等で意味を調べてくる。
授業内容	<宗教間対話と宗教協力(1)> 現代は、宗教間の対話や協力が広くみられる。これは、多様な宗教が並立する日本社会では自然なことであるが、一神教の社会でも普遍的に観られる現象である。本時は、宗教間対話や宗教協力が生じうる背景やその意味について理解する。
事後学習	授業で扱った事例について、プリント「宗教間対話」や参考文献を参照して、さらに自分で考えたものについて400字にまとめる。
参考文献	磯岡作成のプリント「宗教間対話」

第9回	
事前学習	配布されたプリントを読んで理解し、印象に残った部分に下線を施して授業に臨む。理解できない語句や用語は辞典等で意味を調べてくる。
授業内容	<宗教間対話と宗教協力(2)> 現代社会に広範にみられる宗教協力の社会的背景、社会心理学的意味を、日本における具体的な事例を通して理解する。事例としては、日本宗教連盟、教派神道、伝統仏教、キリスト教、新宗教におけるそれぞれの連合体を採り上げ、その実態と社会的要因を理解する。
事後学習	宗教協力について、2回分の内容を踏まえ、さらに自分で調べ、400字以上のレポートにまとめる。
参考文献	磯岡作成のプリント「宗教協力への理解」

第10回	
事前学習	前回配布されたプリント「宗教と食物タブー」を読んで理解し、印象に残った部分に下線を施して授業に臨む。理解できない語句や用語は辞典等で意味を調べてくる。
授業内容	<宗教と食物タブー(1)> 宗教の世界は、独自の世界観や倫理観を有していることがある。その独自性は、時として禁忌(タブー)となって宗教への理解を阻害することがある。本時においては、なかでも宗教信仰から由来する食物のタブーについて講義し、理解を促す。
事後学習	授業で扱った事例について、プリントや参考文献を参照して、さらに自分で考えたものについて400字程度にまとめる。
参考文献	授業内で配布するプリント「宗教と食物タブー」

第11回	
事前学習	配布されたプリント「世界宗教にみられる食物タブー」を読んで理解し、印象に残った部分に下線を施して授業に臨む。理解できない語句や用語は辞典等で意味を調べてくる。
授業内容	<宗教と食物タブー(2)> 食物タブーの意味について理解し、あわせて他文化共生の立場からわが国における各種の対応策について理解する。
事後学習	授業で扱った事例について、プリント「世界宗教にみられる食物タブー」や参考文献を参照して、さらに自分で考えたものについて400字にまとめる。
参考文献	授業内で配布するプリント

第12回	
事前学習	前回配布されたプリント「宗教文化教育とは何か」を読んで理解し、印象に残った部分に下線を施して授業に臨む。理解できない語句や用語は辞典等で意味を調べてくる。

授業内容	〈宗教文化教育①〉 近年、宗教文化教育という概念がさかんに喧伝されるようになった。異文化理解、多文化共生などの文脈での、宗教にかんする正しい知識の教育である。他者理解は自己理解にもつながりひいては人類共存、平和への道にもつながるものであろう。2回にわたって宗教文化教育について理解していく。初回は宗教文化というアプローチについて考える視点を得ることを目的とする。
事後学習	授業で扱った事例について、プリント「宗教文化教育とは何か」や参考文献を参照して、さらに自分で考えたものについて400字程度にまとめる。
参考文献	授業内で配布するプリント

第13回

事前学習	前回配布されたプリント「宗教文化士の検定試験模擬問題」を読んで理解し、印象に残った部分に下線を施して授業に臨む。理解できない語句や用語は辞典等で意味を調べてくる。
授業内容	〈宗教文化教育②〉 宗教文化教育の必要性について講述し学生諸君の考えをうながすことを目的とする。宗教文化教育は、ことにビジネスの世界で必要とされ、宗教文化士という公的資格も生まれている。今回は宗教文化士の検定試験の内容にも触れていく。
事後学習	宗教文化教育の内容を復習する。また、プリント「宗教文化士の検定試験模擬問題」について、自分で調べながら解いていく。
参考文献	授業内で配布するプリント

第14回

事前学習	前回配布されたプリント「SDGsとは何か」を読んで理解し、印象に残った部分に下線を施して授業に臨む。理解できない語句や用語は辞典等で意味を調べてくる。
授業内容	〈SDGsと宗教（1）〉 現代社会の大きな課題である異常気象、気候変動などの環境問題に着目する。そして、SDGs（国連の持続可能な開発目標）の概念について理解し、環境問題と宗教理念について考察する。また、授業試験にあたるレポートを提出する。なお、欠席者または未提出者は、教員に連絡のうえ、翌週に提出すること。
事後学習	授業で扱った事例について、プリントや参考文献を参照して、さらに自分で考えたものについて400字程度にまとめる。
参考文献	授業内で配布するプリント「SDGsとは何か」

第15回

事前学習	SDGsに関する文章や記事をネットから検索して読み込んでおく。
授業内容	〈SDGsと宗教（2）〉 SDGs（国連の持続可能な開発目標）の概念と各宗教の理念との近似について理解する。これは宗教の現代的展開へのアプローチでもあることをあわせて理解する。また、提出された授業内試験の典型的な事例について講評・解説する。
事後学習	半期全体での学びについて、自分なりに振り返りを行う
参考文献	授業内で配布するプリント「宗教とSDGs」

※この他に試験が実施される場合があります。担当教員の指示に従ってください。

ディプロマポリシー	<大DP-1> 【社会の構成員としての基本的知識・技能・能力】 <大DP1-(1)> コミュニケーション能力及び情報リテラシーを修得している。 <大DP1-(2)> 課題発見・問題解決能力を持ち、主体性をもって協力し合う態度を身に付けている。 <大DP1-(3)> 人類の文化や社会と自然等に関する広い知識と理解を有している。 <大DP-2> 【専門教育分野における知識・技能・能力】 <大DP2-(1)> 専門分野の基礎である原理・原則を理解し、それに基づく体系的専門知識を修得している。 <大DP2-(2)> 修得した知識を、実践の場で活用しうる技能・能力を身に付けている。
-----------	--